

59. 心原性脳塞栓症に対する高気圧酸素療法の有効性

龍瀧憲治*¹⁾ 井 清司*¹⁾ 高村政志*²⁾
 田代尊久*¹⁾ 桑原 謙*¹⁾ 小篠揚一*¹⁾
 坂本憲治*¹⁾

{ *¹⁾ 熊本赤十字病院救急部
 *²⁾ 同 国際医療救援部 }

【目的】 当院では、2000年8月より脳梗塞患者に対して高気圧酸素療法(HBO)を施行している。特に、血栓溶解療法を施行し得なかった心原性脳塞栓症に対するHBOの有効性を検討した。

【方法】 2000年8月から2001年3月までの8ヶ月間に入院した心原性脳塞栓症22例のうちHBOが施行された15例と、HBO導入前の1999年8月から2000年3月までの8ヶ月間に入院した心原性脳塞栓症患者17例と、予後について、退院時のGlasgow Outcome Scale(GOS)で比較検討した。またHBO施行例で、HBO開始時間(発症からHBO開始までの時間)による予後についても検討した。

【結果】 HBOは、2.5気圧、1回60分で6-7回施行された。HBO治療群は、男性12人、女性4人で平均年齢72.7歳(59-81歳)、HBO非治療群は男性7人、女性7人で平均年齢は77.1歳(54-86歳)、平均入院期間は、それぞれ22日、18日であった。予後は、HBO治療群でGR 3人、MD 1人、SD 8人、PVS 0人、dead 3人、HBO非治療群でGR 3人、MD 2人、SD 7人、PVS 0人、dead 5人であった。統計学的には有意差は認められなかった。また、HBOは救急搬入から平均3時間12分で施行されていた。発症からHBO開始までの時間は3時間以内が6例、3~6時間が5例、6時間以上が3例で平均6時間18分であった(2例は発症時間不明)。予後はそれぞれ、改善(GR+MD)が2例、2例、0例、不変(SD)が3例、2例、2例、死亡(dead)が0例、1例、1例であった。統計学的には有意差は認められなかった。

【結論】 統計学的に心原性脳塞栓症に対するHBOの有効性は認められなかった。有意差はなかったが、HBO開始時間の早い方が予後は良好である傾向が認められた。

60. 腸閉塞に対する高気圧酸素治療の必要性について

灘吉進也 今林和馬

(共愛会共立病院臨床工学技士)

腸閉塞に対する高気圧酸素治療(以下HBO)の有効性に関しては既に報告がなされている。しかし、保存的治療でも効果が上げられることから、十分に普及していないのが現状だ。今回我々は腸閉塞に対するHBOの必要性の検討を目的とし、保存的治療のみの場合と保存的治療にHBOを併用した場合を比較した。

尚、保存的治療のみの成績は各種文献を検索したものである。

当院では平成10年3月にHBOを導入し、今年6月までに296症例の治療を行い、その内141症例(47.6%)の腸閉塞を経験している。1人あたり1~20回程度施行し平均7.6回の治療回数となっている。

癒着性イレウスは92例でそのうち76例(82.4%)に改善が見られた。麻痺性イレウスは23例で18例(81%)に改善が見られた。その他、絞扼性イレウスなどについての改善は認められなかった。改善が見られなかったものは治療後、手術に移行した例が殆どである。術後診断から強固の癒着や索状物が認められていて、手術以外での改善は見込めないものと思われた。

各種文献で、保存的治療での改善率は85%前後とされており、当院のHBOを併用した場合の成績を上回っている。この事から、HBOを併用することで劇的に改善する例は一部であり、必要性も少ないという結論に至った。